

## 先進7カ国（G7）環境大臣会合に出席された世界の閣僚らが来館されました。

5月15日（日）・16日（月）に富山市で開催された先進7カ国（G7）環境大臣会合に出席された日本・アメリカ・ドイツ・フランス・イギリスの閣僚ら42名が、16日の会合終了後、環境省によるエクスカージョン（視察旅行）で資料館に来館されました。

閣僚らは、資料館エントランスで石井知事、鏡森館長、イタイタイ病対策協議会の高木勲寛会長、そして資料館の語り部7名の出迎えを受けた後、鏡森館長の英語による案内で資料館の展示室を見学されました。

展示室の見学では、閣僚らは全身で72ヶ所を骨折した患者の写真などを見て、イタイタイ病の実態を知り、驚いておられた様子でした。また、住民や専門家による神岡鉱山や工場への立入調査を毎年続けていることを説明すると、「今後も調査は続くのか。」などの質問が出ていました。

見学後、閣僚らは、高木会長や語り部一人ひとりに「長い間大変でしたね。」などと手を取って声を掛けておられる場面もありました。

このように、イタイタイ病の悲惨な実態や公害の克服に向けた取り組みを世界の閣僚らに感じていただけたことを受け、資料館では、今後もイタイタイ病の教訓をしっかりと後世に語り継いでいくため、さまざまな形での情報発信に努めてまいります。



## イタイイタイ病の教訓を海外へより一層発信していきます。

イタイイタイ病資料館では、海外からの来館者を積極的に受け入れております。

5月25日（水）には、シンガポールの St. マーガレットセカンダリースクールの生徒ら25名が来館されました。これは、富山市婦中地区の少年少女海外派遣事業の一環によるもので、昨年につき4回目の来館となります。

生徒らは、英語版のガイダンス映像を視聴した後、展示室内を見学し、イタイイタイ病の恐ろしさと先人たちの克服に向けた取り組みについて理解を深めていました。その後、江添良作さんの語り部講話を通訳を介して聴講し、イタイイタイ病の認定患者であった祖母の当時の生活の様子や、イタイイタイ病対策協議会副会長（当時）として、患者救済に懸命に取り組まれた父親の思い出話に真剣に聞き入っていました。

また、5月27日（金）には、アメリカのオハイオ州立大学公衆衛生学科の学生ら22名が来館されました。展示室の見学では、学生らは健常者の大腿骨と脆くなった骨の模型に触れ、骨の重さの違いに驚いていた様子が印象的でした。語り部でイタイイタイ病対策協議会副会長でもある高木良信さんの講話では、通訳を介し、イタイイタイ病患者であった母親の当時の様子や裁判の経緯、さらに二審判決後の昭和47年から毎年続けている神岡鉱山への立入調査などについてお話いただき、悲惨な公害を二度と引き起こしてはならない、後世にしっかり伝えねばならないという高木さんの強い思いは、言葉の違いはあると言うものの、学生らにはしっかりと伝わっていると感じられました。

今回の見学を通してイタイイタイ病の教訓や環境問題の重要性、さらには健康の大切さを理解していただけたのではないのでしょうか。

今後も、資料館では、イタイイタイ病の教訓を海外へ発信していくため、引き続き、海外からの来館者の積極的な受け入れや情報発信のための企画を行ってまいります。



江添良作さんの語り部講話を聴講している  
St. マーガレットセカンダリースクールの皆さん



資料館職員の展示解説を真剣に聞いている  
オハイオ州立大学公衆衛生学科の皆さん